

平成 19 年 11 月 26 日

6 号機原子炉建屋内における水漏れについて

6 号機は定期検査中ですが、平成 19 年 11 月 22 日午後 5 時 22 分頃、原子炉建屋地下 2 階で水たまりがあるとの連絡を、協力企業作業員より受けました。ただちに当社運転員が現場を確認したところ、原子炉建屋地下 2 階にある機器ドレンサンプ*¹より水が溢れていたことから、ただちにサンプポンプを起動し、溢水は停止しました。

これまでの調査において、原子炉再循環ポンプ（A）の点検にともないポンプ内の水を当該サンプに排水し、本設ポンプのスイッチを切った状態で、その水を仮設ポンプで隣接する床ドレンサンプに汲み上げていた*²ことがわかりました。

また当日は、原子炉再循環ポンプ（A）の点検作業が終了したことから仮設ポンプを撤去しましたが、本設ポンプのスイッチが切ったままであったため流入水を汲み上げることができず、水が溢れたことがわかりました。今後、引き続き水漏れの原因について調査します。

なお、漏れた水は堰内にとどまっており、漏えい量は約 245 リットル、放射エネルギーは約 2.1×10^7 ベクレルで、拭き取りによる清掃を実施しました。これによる外部への放射能の影響はありません。

以 上

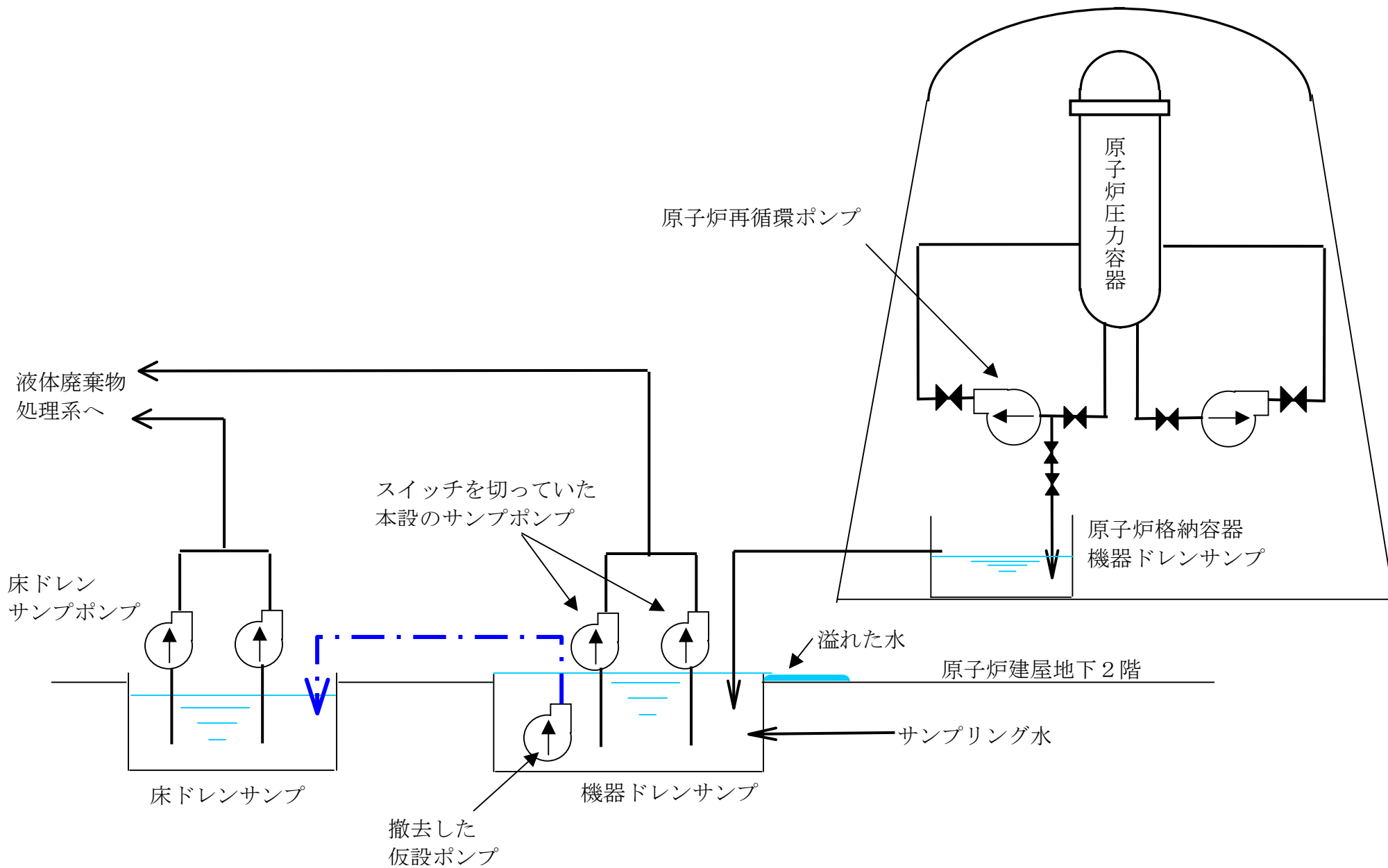
* 1 機器ドレンサンプ

各建屋内の機器（ポンプ・配管等）からの排水・漏えい水などを処理するために一時貯蔵する水槽。

* 2 床ドレンサンプに汲み上げていた

床ドレンサンプは各建屋内の漏えい水や機器（ポンプ・配管等）からの排水などを処理するために一時貯蔵する水槽。

今回の排水作業においては、通常よりも多い原子炉内の水を処理する必要があったことから、排水中に含まれる放射性物質を適切に除去するため、床ドレンサンプの液体廃棄物処理系で処理することとしていた。



6号機原子炉建屋内における水漏れ状況概略図